

メッセージ：献身的な奉仕と生きたささげもの

おはようございます。天の父なる神様の家へようこそ来られました。

今朝、私はイエス様に仕えるクリスチャンの奉仕に焦点を合わせるため『ローマ人への手紙』に立ち返ります。それは、自らを生きたささげものになるという態度を必要としていることを示すためです。

前回のメッセージ「あなたの時は、今年来るのでしょうか？」という題で、私は聖書が死に関するあらゆる神秘をどのように取り除いているかを示しました。また、イエス様を信じてひとたび新しく生まれた変わったクリスチャンへの神様の愛は、無条件ではないということも示しました。

罪人は、イエス様が十字架でささげられた犠牲の死を信じることによって新しく生まれ変わります。これは確かに神様の無条件の愛によるものであり、行いに関しては賜物です。その罪人は、信仰による救いを受けるために、何一つ良い行いや宗教的な行為をしませんでした。使徒パウロがエペソの教会に宛てた手紙<エペソ人への手紙 2 章 8-9 節>で、このことを明確にしました。

<エペソ人への手紙 2 章 8-9 節>

8 あなたがたは、恵みにより、キリストを信じることによって救われたのです。しかも、そのキリストを信じることも、あなたがたから自発的に出たことではありません。それもまた、神からの賜物（贈り物）です。

9 救いは、私たちの良い行いに対する報酬ではありません。ですから、だれ一人、それを誇ることはできません。

しかし本日のメッセージでは、義認と呼ばれる救いに至らせる神様の無条件の愛、聖化と呼ばれる生きたささげものや兄弟愛の神様の条件付きの愛で聖書の真理を結び合わせます。

実際のところ、義認と聖化は、クリスチャンの人生において共に存在しなければなりません。

救いに至らせる神様の無条件の愛

2024 年 4 月のローマ人への手紙第 12 章のメッセージで、義認は、私たちはもはや有罪ではなく、私たちの永遠の赦しを買い取ってくださるためにイエス様が十字架で死なれたことに基づいて私たちが義とされているという神様の宣言であると私は説教しました。

私たちの義認は時が始まる前から、時の中において、そして時がもはや存在しなくなった後に至るまでの聖書に啓示されているとおりの神様のご計画によるものです。

またローマ人への手紙は、宇宙の主権者なる王である神様が、すべての人の救いを御言葉の中に、そしてご自身が選ばれた教会の手に置かれたことを宣言しています。

そして本日は、信仰によって義とされてイエス様に従うクリスチャンは生きたささげものとしてすなわち聖化された信徒として献身的な奉仕へと導かれるとパウロはどのように述べているかを、さらに詳しく見ていきます。

それゆえ、神様の継続的な愛は、神様が信じる者を導いてくださることによって今や信じる者の人生に示されます。詩篇の作者が<詩篇 23 篇 3 節>で語ったとおりです。

<詩篇 23 篇 (2) ・ 3 節>

主は私を豊かな牧草地にいこわせ、ゆるやかな流れのほとりに導いて行かれます。主は傷ついたこの身を生き返らせ、主の栄光を現すことができるよう、私を助けてくださいます。

神様はすべてのご自身の子どもたちに忍耐強く、また親切であられます。しかし、イエス様に従うための主の要求は、今もなお真実です。<マタイの福音書 16 章 24 節>にこう記されています。

<マタイの福音書 16 章 24 節>

それから、弟子たちに言われました。「だれでもわたしの弟子になりたいければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしについて来なさい。

私たちがイエス様に従うとき、私たちは聖化されます。すなわち、主の栄光と良い行いのために、主のかたちに似せて新しくされ、聖化されるのです。

<ローマ人への手紙 12 章 1-2 節>で言っています。

<ローマ人への手紙 12 章 1-2 節>

1 愛する皆さん。そういうわけですから、あなたがたにお願いします。あなたがたの体を、神に喜んでいただける、生きた、きよい供え物としてささげてください。それが神への礼拝となるのです。

2 この世の人々の生活や考え方をまねてはいけません。むしろ、神に喜ばれることは何かを思いながら、なすこと考えることすべての面で生き生きとした、全く新しい人となりなさい。

神様は、私たち自身をささげものとしてご自分にささげるよう求めておられます。私たちが真に神様そして御子イエス様の犠牲を畏れ敬うとき、神様が私たちをイエス様の犠牲的な歩みに従うよう召してくださいることを光栄に感じます。

イエス様こそ、私たちのために十字架でご自身のいのちをささげられたお方です。神様のご計画は、すべてのクリスチャンがイエス様に従って天国、私たちの最終的な聖化に至るまで、ますますイエス様に似た者とされることです。

これは、イエス様の近くを歩むために、犠牲を伴う生き方を受け入れることを意味します。

さて、ここで犠牲について少し述べてみましょう。神様への最初の動物のささげものを見てみましょう。これは、アダムとエバの2番目の息子アベルによるものでした。

<創世記 4 章 3-4 節>

3 収穫の時期になると、カインは作物の中から主に供え物をささげました。

4 アベルは一番良い子羊の最上の肉を、自分で神にささげました。主はアベルのささげ物は受け取りましたが、

アベルからおおよそ 5,000 年後、次に神様にささげられた動物が記録されているのはノアによるものでした。全世界を襲った大洪水を生き延びたノアの箱舟は山の上にとどまり、そしてノアが地面が乾いているのを見たとき、ノアはその有名な船から出ました。私たちは<創世記 8 章 18-20 節>にこう記されているのを読みます。

<創世記 8 章 18-20 節>

18 ・ 19 それを待っていたように、ノアと妻と息子夫婦、それに動物たちはみな、その種類ごとに船から出ました。

20 ノアはそこに主への祭壇を築き、神から指定された動物や鳥をささげ物としてささげました。

エデンの園で生きていた以来の歴史を語り継いできた、彼の家系にいる敬虔な人々のことを、ノアが覚えていた可能性は低くないでしょう。もしそうであれば、ノアはすぐにアベルの行いに自分を重ね、同じようにしました。神様はノアの動物のささげものを受け入れられ、人類を存続させるためにノアにあわれみを与えられたことを喜ばれました。私たちは<創世記 8 章 21 節>にそれを見ます。

<創世記 8 章 21 節>

神はそれを喜び、こう心に誓われました。「もう二度とこのようなことはしない。人間は子どもの時から悪い性質を持っていて、悪い考えを抱くものだ。わたしはもう、大地をのろって生き物を滅ぼすようなことは絶対にしない。

それは全世界的な大洪水によるものでした。

パウロは、ローマのクリスチャンたちが生きたささげものとなるようにというこの勧めに従うことを可能にするために神様のあわれみが必要であることを知っていたという点に注目してください。 私たちもまた、神様のあわれみを大いに必要としている者です。

<ローマ人への手紙 12 章 1 節>

愛する皆さん。そういうわけですから、あなたがたにお願いします。あなたがたの体を、神に喜んでいただける、生きた、きよい供え物としてささげてください。それが神への礼拝となるのです。

<ローマ人への手紙 12 章 1 節>について、ある牧師が私に話してくれた冗談があります。 それは一見おかしく聞こえますが、実は真実で深い意味をもっています。 どうぞ笑ってください。 そして、それから私たちのすばらしい救い主であられ神様であられるお方に、私たちの一貫しない従順さを言い表していることに気づいてください。

その冗談、あるいは言葉遊びはこうです。

「生きたささげもの問題は、祭壇からはい出し続けることです。」

まさに私たちもそうなのです。

私たちはしばしば、自分のからだを生きた聖なるささげものとしてささげることよりも、イエス様に従うためのもっと楽な道を探してしまいます。 しかし、神様のあわれみによって、聖霊なる神様は私たちを再び祭壇へと導き戻してくださいます。 というのは、私たちがイエス様に近づき成長し、イエス様のために生きる喜びを見いだすのは、祭壇の上においてだからです。

「Bruce 牧師、神様は私に犠牲となることを求めておられるのですか？」

はい、その通りです。

<ローマ人への手紙 12 章 1 節>の新約聖書のいくつかの一般的な翻訳は、「これはあなたがたの霊的な礼拝です」と言っています。 これらの訳では、この節において重要な強調点となっている「理にかなった」という重要な言葉が入っていません。

原文のギリシア語聖書<ローマ人への手紙 12 章 1 節/MOUNCE 版>では、次のように記されています。

「ですから兄弟たちよ、神のあわれみによってあなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、生きた、聖なる、神に受け入れられるささげものとしてささげなさい。 これこそ、あなたがたにとって理にかなった (logikos) 礼拝なのです。」

このギリシア語 logikos は、英語の “logical (理にかなった)” の語源となっている言葉です。

そうです。 私たちは、自分自身が生きたささげものとなることを、魂を救うために御子をささげてくださいました神様によって理にかなった依頼として見るべきです。

要点①

あらゆるあわれみに満ちた神様を畏れ敬い生きることは、「献身的な奉仕」の土台です。 このような畏敬の人生は、イエス様を通して自分自身を完全に神様にささげるよう私たちに自由してくれます。

次に、パウロは<ローマ人への手紙 12 章 2 節>で書いています。

<ローマ人への手紙 12 章 2 節>

この世の人々の生活や考え方をまねてはいけません。むしろ、神に喜ばれることは何かを思いながら、なすこと考えることすべての面で生き生きとした、全く新しい人となりなさい。

これは簡単に聞こえるかもしれませんが、決して容易なことではありません。この世の支配者である悪魔は、キリストにあって本来の性質とは異なる性質に合わせる、または、一致させようとクリスチャンたちに圧力をかけようとします。

神様は、私たちを神様の子どもとなるために絶えず造り変えておられます。聖霊なる神様は、私たちをますますイエス様に似た者となるようにし続けてくださいます。

あからさまな罪への誘惑が私たちに向けられることがあるかもしれませんが、まさに通常は悪の手、この世の圧力、そしてサタンの悪い忠告に私達がいいなりになるようにすることを可能にさせるのは、私達が栄光へと向かって忠実に歩む日々の疲れです。

1970 年代に戻って、私たち若いイエス様を信じている者たちは、ローマ人への手紙 12 章 2 節に基づいたこの短い歌を歌っていました。

あなたをこの世にその型どおりにはめ込ませてはいけない
疲れ果て、弱り切り、ついには制御を失うまで

変えられるべきなのはあなたの物の見方そのもの
地上のこの下であなたは神様の視点が必要

神様の視点、または、神様が物事をご覧になるように物事を見ることが、<ローマ人への手紙 12 章 2 節後半>の次の節の部分です。

<ローマ人への手紙 12 章 2 節後半>

むしろ、神に喜ばれることは何かを思いながら、なすこと考えることすべての面で生き生きとした、全く新しい人となりなさい。

神様は私たちの思いを新しくしてくださいます。イエス様とともに過ごす 1 人の時間、日々の仕事をしながら祈り続けること、そしてクリスチャン同士の交わりを含む私たちの行動で、私たちの思いを新しくしていただくよう神様に働きかけ、神様が私たちの思いを新しくされるようにさせます。

このようにして、神様は私たちにあわれみを注ぎ続けてくださいます。神様は、私たちを御手の中に保ち、何度も何度も新しくし続けたいというご自身の願いを、栄光に至るその時まで少しも変えておられません。その結果は、<ローマ人への手紙 12 章 2 節後半>にあるように、遅かれ早かれ、常にその挑戦に向き合う価値があります。

それは、あなたがたが神様の御心が何であるかを見分けるようになるためです。すなわち、それは善であり、神様に受け入れられ、完全なものです。こうして生きたささげもののクリスチャンは、天国の栄光前に、自分がこの地上で神様の御心のうちを歩んでいることを、はっきりと知るようになるのです。

Amplified 聖書 (AMP) 【ヘブライ語、アラム語、ギリシャ語の原典が持つニュアンスを、英語の同義語、補足説明、別解釈を用いて括弧などで補い、1 つの聖句からより深い意味を引き出すように設計された独自の英語翻訳聖書】は、この聖句<ローマ人への手紙 12 章 2 節/AMP>に真実で、意味を広げて説明するいくつかの力強い表現を用いています。

この世と同じかたちに、もはや従ってはなりません [その表面的な価値観や慣習に従うことをやめなさい]。

むしろ、心を新しくすることによって変えられなさい。〔霊的に成熟していくにつれて、次第に変えられていきなさい。〕

あなたがたの思いを新しくすることによって〔神様にかなった価値観や倫理的態度に心を向けながら〕、

そうすれば、あなたがた自身が神様の御心が何であるかを確かめることができるのです。すなわち、それは善であり、神様に受け入れられ、完全なものです。【それは、あなたがたの神様のご計画と目的において完全なものです。】

Amplified 聖書の表現は、次のものが含まれます。

「この世に同調してはなりません [もはやその表面的な価値観や慣習に従ってはなりません]。』

地上のあらゆる社会は、神様の御言葉と聖霊なる神様に反している「普通」と呼ばれている表面的な価値観や慣習があります。

世界中のすべてのクリスチャンは、自分が子どもの頃に育った文化の中に、どれほど神様に反しているかを知ることに関心しています。しかし私は聖霊なる神様が、ここ大阪インターナショナルチャーチに集う世界のあらゆる文化の中にある文化的な罪を示してくださいますようにと切に祈ります。

しかし神様は、どの社会や文化のためにも、その文化の考えや価値観をもって聖書の上に書き加えるために、教会に聖書をお与えになりませんでした。もし私たちが、聖書と聖霊なる神様の御声を、自分たちの人生における最終的かつ絶対的な権威としないならば、なぜサタンがしばしば私たちクリスチャンをマクドナルドのハンバーガーのようにむさぼるのかは不思議ではありません。

目標、すなわち最終的な目的地は天国における栄光であるということを決して忘れてはいけません。

しかし、この次の聖句でみるように、私たちが主に近く歩むとき、地上で報いがあります。

Amplified 聖書の表現は、次のものが含まれます。

「そうすることで、あなたがた自身が神様のみこころが何であるかを確かめることができるのです。すなわち、それは善であり、神様に受け入れられ、完全なものであり [あなたの神様のご計画と目的において]。』

自分の人生における神様のみこころを個人的に知ることほど、満ち足りて平安なことはありません。これはまさに、地上で味わう神様の栄光の一端です。神様のみこころは常に善であり、受け入れられ、完全であり、私たちの人生の神様の独自で唯一の計画を明確にしてくれます。したがって、聖書は、私たちが生きたささげものとして天国の栄光を目指しているならば、この地上においても神様の栄光を味わうと言っています。

要点②

自らを生きたささげものとして神様にささげることを行わないクリスチャン達は、地上において、神様のより豊かなご臨在、そして自分への神様のみこころを真に知るといふ栄光を受けず。彼らは<コロサイ人への手紙 1 章 10 節>を経験します。

<コロサイ人への手紙 1 章 10 節>

いつも主に喜ばれる生き方をして、主の評判を高めることができますように。他の人々に善意と親切を示し、神をますます深く知るに至りますように。

生きたささげものは神様の賜物に確信を持ちながらもへりくだる

次にパウロは、私たちがキリストにある私たちの人生を始めるために、また<ローマ人への手紙 12 章 3 節>のように神様がそれぞれに信仰の量りを与えてくださるために、神様のあわれみに依存する私たちに思い起こさせます。

<ローマ人への手紙 12 章 3 節>

3 私は使徒として、あなたがた一人一人に警告します。自分を過大に評価してはいけません。神から与えられている信仰に応じて、慎み深くありなさい。

さて、使徒パウロはローマの信徒たちに、自分たちが過度に、あるいは思い上がって自信を持つ前に、神様がどのような賜物と召しを与えておられるのかを、神様が語っておられるのを聞いたかを確認するように思い起こさせています。

すべてのクリスチャンは、神様が私たち一人ひとりに（個人的に）信仰の量りを割り当ててくださっていることを心に留めている必要があります。この聖句は、若いクリスチャンにとっては理解が難しいかもしれません。しかし、キリストにあっての成熟は、神様が神様の御心に従って、キリストにある確信を与えてくださるといことが含まれています。これは、まだ自分自身の意思でないかもしれません。いわばこれが本当にクリスチャンの成熟の定義の大きな一部分です。

<ローマ人への手紙 12 章 3 節>で示されたものは、自分を過小に考えないということでもあります。

<ローマ人への手紙 12 章 3 節>

3 私は使徒として、あなたがた一人一人に警告します。自分を過大に評価してはいけません。神から与えられている信仰に応じて、慎み深くありなさい。

これは、神様があなたに実際に与えられた信仰の量りのことを神様の御言葉と聖霊なる神様から聞くことによって可能です。なぜなら、日々イエス様を求めることは私たちの務めであり、あなたの信仰を成長させ続けることは神様の務めだからです。私たちはこの努めが流動的、または、絶えず変化しているのに気づきます。しかしわくわくするクリスチャン生活の一面です。

イエス様は、神様がどのようにクリスチャンの信仰を成長させられるのかを語られました。私たちは自分の意志だけによって信仰を成長させることはできません。というのも、イエス様は<ルカの福音書 13 章 20-21 節>で言われました。

<ルカの福音書 13 章 20-21 節>

20・21 また神の国は、パン種のようなとも言えます。目には見えないけれども、少しずつ確実に作用して、パン全体を大きくふくらませるのです。

パン種が入ると、パンはふくらみます。このようにして、私たちの信仰は成長するように促されています。私たちが信仰を保ち続けるとき、神様はしばしば、私たちの理解を超えて、長い期間にわたって信仰を成長させるようにしてくださいます。神様が私たちに与えてくださったその信仰が、（私たちの心という）粉の中に蒔かれたパン種です。

私たちが信じ続けてイエス様とそれぞれの人生の神様の御心を探し求め続けるとき、神様は私たちの信仰を成長させる神様の働き以上のことをされます。パウロは、新しいあるいは成熟したクリスチャンの自分の人生の神様の御心を知りたいという願いを神様がかなえてくださることを知っていました。クリスチャンの歩みの中で時が経つにつれて、私たち一人一人は、<ローマ人への手紙 12 章 3 節>にある自分自身の「信仰の量り」の詳細を、さらに知るようになります。

教会における聖書に基づく一致

次にパウロは、地上にあるキリストのからだである教会において、「チームまたは一致した態度」を強調しています。

<ローマ人への手紙 12 章 4 節-5 節>

4・5 人の体には多くの器官があるのと同じように、キリストの体である教会にも、多くの器官があります。私たちはみな、キリストの体の各器官です。その体が形造られるには、私たちが必要です。というのは、それぞれが異なった役割を果たすからです。ですから、私たちは互いに依存し合っており、だれもがほかのすべての人を必要としているのです。

すべてのクリスチャンはキリストにあって結び合わされており、そしてこのようにして今、地上にあって共にキリストのからだです。 イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンだけがこの超自然的な「一致」をもつことができます。 それは自然の誕生による家族や、地域社会、国家によるものではありません。 しかし、イエス様を信じ、霊的に新しく生まれ変わることによって、キリストにある兄弟姉妹とだけに与えられる一致です。

再び<ローマ人への手紙 12章4節-5節 AMP版>より。

<ローマ人への手紙 12章4節-5節 AMP版>

4「ちょうど一つの〔肉体の〕からだに多くの部分があり、それぞれの部分がみな同じ働きや特別な役割を持っているわけではないように、

5 同様に、大勢いる私たちも、キリストにあって〔それにもかかわらずただ〕一つのからだであり、一人ひとり互いに属し合う部分であって、〔双方で互いに依存し合っている存在なのです。〕」

人間の体は最もよく機能するために互いにつながり合っているように、クリスチャンもまた互いに依存し合っています。 どの地域教会であっても、神様の御国のために豊かな実を結ぶためには、その教会を自分のホームチャーチとして献身しなければいけません。 町中や世界中の多くのクリスチャンと交わりを持つことは良いことですが、イエス様のために実を結ぶ地域教会は生み出せません。

「私たちは双方で互いに依存している」と悟って学んでいる地域教会での各メンバーとの交わりだけが、この依存関係からの喜びと平安を生み出します。

「痛い」そして「アーメン」。 これはしばしば、他者との不一致を意味します。 もし地域教会において不一致のリスクがなければ、私たちはキリストのからだとして成長しないでしょう。 私たちクリスチャンとしての不完全さは、主イエス様にとって驚きではありません。

愛する OIC の聖徒のみなさん、<箴言 27章17節>を覚えていてください。

<箴言 27章17節>

鉄が鉄によって研がれるように、友との熱のこもった議論は、互いを研ぎ合います。」

要点③

自らを生きたささげものとして神様にささげているクリスチャンは、地域教会において他のクリスチャンとの不一致を解決するために神様から勇気を受け取ります。 もし自分のホームチャーチでキリストのからだの他のメンバーと関わることを拒むならば、その人は自分を生きたささげものとして神様にささげているとは言えません。

「鉄が鉄によって研がれるように」は神様がより成熟し、より知恵あるクリスチャンへと形づくってくださるという意味です。

ペテロは<ペテロの手紙 I 5章5節>で書きました。

<ペテロの手紙 I 5章5節>

青年たちにも言います。長老たちの指導に従いなさい。みな、謙遜になって互いに仕え合うべきです。神は、高慢な者には敵対し、謙遜な者には恵みを与えられるからです。

<ローマ人への手紙 12章9-11節>

9 見せかけだけで人を愛してはいけません。真心から愛しなさい。悪いことを憎み、良いことには賛成しなさい。

10 兄弟のような愛情で互いに愛し合い、また、心から尊敬し合いなさい。

11 決して仕事を怠けず、熱心に主に仕えなさい。

敬虔な生き方のためのこれらの忠告や教えは、あまり多くの説明や解釈を必要としません。しかし私は、「見せかけだけで人を愛してはいけません。真心から愛しなさい。」という意味を、明らかにしようとするべきであると思います。

「見せかけだけで」という原語のギリシャ語新約聖書 (MOUNCE 版) は、“anypokritos (アニュポクリトス)” であり、しばしば「心からの」として訳されています。同じギリシャ語辞書は、「誠実な」「真実の」「心の底からの」としてのような意味をもっています。

さて、私たち皆は、誰かの気持ちを傷つけないようにとの努力で、私達がよいことを言わなければならないと感じることがどれほど難しいかを知っています。私は牧師としてこのことの困難があります。というのも、私はしばしば人々に彼らの罪について責任を負うように考えさせなければならないからです。

私たちは皆、このことで困難があります。

<エペソ人への手紙 4章15節>は私たちに語っています。

<エペソ人への手紙 4章15節>

むしろ、誠実に語り、誠実にふるまい、誠実に生きて、常に真理に従うことを喜び、あらゆる点で、教会のかしらであるキリストにますます似た者となるのです。

彼らが失敗した、または、自分を傷つけたとき、思いやりのない無愛想さでもなく沈黙してその人を称賛することもどちらも神様のみこころではありません。 <ローマ人への手紙 12章9節>や<エペソ人への手紙 4章15節>のこれらの単純な教えは、クリスチャンにとって多くの祈りを必要とします。しかし、地域教会におけるキリストのからだの一員としての文脈は、私たちすべてが感情を傷つけるリスクがなければならないことを意味し、その結果私たちみなは使徒パウロの教えに従うことができます。しかし、神様の御言葉や聖霊なる神様によらないで感情を傷つけたとき、私たちは謝らなければなりません。

はい、愛する聖徒の皆さん、多くの祈りです。

要点④

もし OIC で私たちが、イエス様にあって一つの家族としてさらに親しく共に引き寄せ合うなら、私たちは互いの不完全さを理解するでしょう。しかし、互いに正直でいることもできます。

この世におけるまた教会におけるあらゆる私たちの葛藤のなかで、私たちはみな<コリント人への手紙 I 13章8節>を覚えていなければいけません。

<コリント人への手紙 I 13章8節>

神からいただいた賜物や能力は、いつかは尽きます。しかし、愛は永遠に続きます。預言すること、異言で語ること、知識などの賜物は、やがて消え去ります。

次に<ローマ人への手紙 12章10-11節>で言っています。

<ローマ人への手紙 12章10-11節>

10 兄弟のような愛情で互いに愛し合い、また、心から尊敬し合いなさい。

11 決して仕事を怠けず、熱心に主に仕えなさい。

兄弟愛は自然なものではありません。しかし、自らを生きたささげものとしてささげているクリスチャンのうちに、神様が兄弟愛を実現してくださいます。

私たちが義とされたことに神様を畏れ敬う生活は献身的な奉仕へと導くという冒頭で私が述べたこと、そしてローマ書の中心主題を振り返ってみましょう。 私たちが自分のホームチャーチで奉仕するとき、同じ教会のクリスチャンとよりよくつながります。 不完全な家族として、私たちは愛のうちに不一致を良い結果とすることができます。 ここで使徒パウロは、私たちがイエス様に献身しているだけでなく、兄弟愛をもって互いに献身していることを明らかにしています。

愛は、他の人を尊び、その人を自分よりも優先することです。 熱心さは、私たちがコンピューターゲームのように教会を運営していないという意味です。 教会は、その内にいる人々にとっても、壁の外にいる人々にとっても、永遠を握っています。

教会の外にいる人々は、キリストのからだがイエス様のような愛をもっているのを見る必要があります。 私たちが成熟していくにつれて、神様は私達それぞれがどのように主に仕えるべきかを示してください。 もしまだ自分の奉仕が分からないのであれば、「それなら、何でもよいので、自分のホームチャーチを助けるために何かをしてください」

神様のクリスチャンへの条件付きの愛 ・ イエス様の御言葉への従順

しかし<エペソ人への手紙 2章 8-9 節>の信仰によって救われるこれらの有名な聖書箇所のおすぐ後に続く次の節に注目してください。

<エペソ人への手紙 2章 8-9 節>

8 あなたがたは、恵みにより、キリストを信じることによって救われたのです。 しかも、そのキリストを信じることも、あなたがたから自発的に出たことではありません。 それもまた、神からの賜物（贈り物）です。

9 救いは、私たちの良い行いに対する報酬ではありません。 ですから、だれ一人、それを誇ることはできません。

そして次の<エペソ人への手紙 2章 10 節>

10 私たちをこのように造り変え、キリスト・イエスによる新しい生活に入れてくださったのは神です。 この新しい生活は、神がずっと以前から計画してくださったものであり、私たちが互いに助け合って過ごすためでした。

御子という賜物を与えてくださった神様に応えて神様を愛し、そして生きたささげものとなることは、神様があらかじめ（私たちがまだクリスチャンでなかった時から）備えていてくださった良い行いのうちを歩むという従順につながります。

このことは、どのように神様の継続的な愛が無条件のものではないことを示しています。

さて、神様は、イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンを愛し続けてくださいます。 しかし、彼らに生きたささげものとなることを願っておられるという神様の条件は、神様がクリスチャンに神様を愛し返す、または、応答として神様を愛することを願っておられるということを意味しています。 特に、主イエス様のご自身の血をもってクリスチャンを買い取ってくださったため、主イエス様とその戒めを愛することを願っておられます。

だから、そののち、パウロは<エペソ人への手紙 2章 10 節>で記しました。

<エペソ人への手紙 2章 10 節>

10 私たちをこのように造り変え、キリスト・イエスによる新しい生活に入れてくださったのは神です。 この新しい生活は、神がずっと以前から計画してくださったものであり、私たちが互いに助け合って過ごすためでした。

神様は私たち信じる者に、神様の愛を注ぎ続けてくださいます。しかし、もし私たちがイエス様を愛しているなら、私たちは神様を愛し返したいという願いをもって応答するでしょう。これが、神様の条件付きの愛です。私たちの応答は、父なる神様と御子イエス様との関係をわかり、それがどれほど重要かがすべてです。

クリスチャンへの神様の警告

神様を愛し返さないことの、重大な点とは何でしょうか。それは、神様の子どもたちを愛さないことです。

私の2月のメッセージは、「あなたの時は今年来るのでしょうか」という題でした。私は、クリスチャンになりそしてクリスチャンにとどまるための神様の条件付きの愛であるイエス様の戒めに焦点を当てました。

イエス様の条件、すなわち父なる神様の条件は、クリスチャンが主の御言葉を守ることです。

<ヨハネ 14 章 23 節>で、イエスはお答えになりました。「わたしを愛し、わたしのことばを守る人にだけ、わたしは自分を現すのです。父もまた、そういう人を愛してくださいます。わたしたちはその人のところに来て、その人といっしょに住みます。

前回の私のメッセージで、私は私たちが決して死を見る（あるいは味わう）ことがないという主の約束は主の戒めを守るという条件がどのようにあるかを示しました。

2月のそのメッセージから引用します。

<「ヨハネの福音書 8 章 51 節>
よく言っておきましょう。わたしに従う者は、決して死なないのです」と言われました。

ここでイエス様は、ご自分の御言葉を守るクリスチャンは決して死を見ることがない、と約束されておられます。ただし、イエス様は決して肉体的に死なないとは言っておられないことに注意しましょう。

皆さんは「Bruce 牧師、私達が死を見ることがないためには、主のことばをどれほど守らなければならないのですか。」と尋ねるかもしれません。

イエス様は、御言葉を守るための霊的な事柄を数学で私たちに示されませんでした。数字で示されると単に、主なる神様が十字架に釘付けにされた律法に立ち返ることになってしまうでしょう。

しかし、律法の霊、今やイエス様の教えは、イエス様への愛という私たちの心にあります。

罪人たちとは異なり、クリスチャンの内には聖霊なる神様が住んでおられます。クリスチャンは従うことを選ぶことができ、そして聖霊なる神様は常に、クリスチャンがイエス様の御言葉と戒めに従うことができるよう助けてくださっています。私たちの心の内で聖霊なる神様がさらにも働かれるために、神様の御言葉を読み、暗記することは明らかに必要です。しかし、神様は、私たちがイエス様のようにならせるために、内側の働きを約束されました。

それでは、救いに至るまで主なる神様の御言葉をどのように守り、また、どれほど主なる神様の御言葉を守れば「死を見ることがない」のかについて、どのように私たちは理解できるのでしょうか。

イエス様の教えのすべては、主なる神様のためにどのように生きるべきかを示す戒めです。イエス様を愛することは、すべてのクリスチャンに戒めとしてイエス様の教えに従いたいと願わせるのです。しかし使徒ヨハネは、とにかくクリスチャンと呼ばれるためにだれでも必要なテストとしてイエス様の戒めのうちの1つを選びました。ヨハネは、イエス様という光の中を歩み続けるなら、私たちは神様

との交わりの中にとどまるだろうと強調しました。そのため、私たちは決して死を見ることがありません。ヨハネが選んだその戒めは、「愛」を中心に置くことです。

イエス様と共に歩み続けて死を見ることのないうちに最も重要な戒め

イエス様が裏切られるその夜の最後の晩餐の席で、イエス様は使徒たちに「ヨハネの福音書 13章 34節」で語られました。

＜ヨハネの福音書 13章 34節＞

そこで今、新しい戒めを与えましょう。わたしがあなたがたを愛するように、互いに愛し合いなさい。

それから 60 年後、使徒ヨハネは、その手紙の中で、イエス様のすべての戒めを守ることの重要性を語っていますが、とりわけ互いに愛し合うという戒めを強調しています。この手紙の中で、使徒ヨハネはイエス様の戒めを「古い戒め」として繰り返しました。使徒ヨハネは、イエス様が十字架につけられる前夜、最後の晩餐の席で最初にこの戒めをイエス様がお与えになったことを再び言及していました。

教会の皆さん、心からイエス様の戒めを守ろうとすることが、神様がご覧になっているものであることを覚えてください。神様はたとえ忠実な従順において私たちがつまづくことがあっても、イエス様を愛そうとする私たちの願いを見ておられます。それでもなお、ヨハネは、キリストにとどまり続けるためのクリスチャンの交わりの中で警告を強調しています。それは＜ヨハネの手紙 I 2章 3-6節＞です。

＜ヨハネの手紙 I 2章 9-12節＞に

9 キリストの光の中を歩んでいると言いながら、兄弟（信仰を同じくする者）を憎む人は、相変わらず暗闇の中にいるのです。

10 兄弟を愛する人は光の中を歩む者であり、つまづくことはありません。

11 しかし兄弟を憎む人は、暗闇の中をあてどなくさまよい、自分の行く先もわからない者です。暗闇のために、足もとさえよく見えないのです。

12 I 子どもたちよ。このように書き送るのは、あなたがたの罪が、すでに救い主イエスの名によって赦されているからです。

クリスチャンの兄弟を憎むことは、怒りの一瞬に起こる 1 度きりの罪の出来事ではありません。それは、クリスチャンの生き方に影響を及ぼす、継続的な実践です。罪を続けるクリスチャンのこの態度は、ヨハネの手紙で最も重要な意味です。これは、＜ヨハネの手紙 I 3章 6節／マウンス訳＞で訳されているように原語ギリシア語の動詞時制で明確です。

＜ヨハネの手紙 I 3章 6節＞

6 ですから、もし私たちが、いつもキリストのそば近くにおり、従順に従うなら、罪を犯し続けたりしないですみます。罪を犯す人々は、真の意味でキリストを知らず、キリストのものとなっていないからです。

これらの聖句を読む時、私たちはギリシア語の時制に十分注意を払う必要があります。このことは、イエス様を愛する真のクリスチャンは罪を犯すかもしれませんが、罪を犯し続けることはないということが明確になります。

＜ヨハネの手紙 I 3章 6節／マウンス訳＞でヨハネが書いたことは、イエス様が意味されたことを、実際に聖霊なる神様が実際の生活の中で明らかにされたものでした。それはすなわち、兄弟姉妹であるクリスチャンを憎むことの生き方は、その人とイエス様との関係が脅かされるということです。

それは、その人が天国に至ることをそもそも危うくすることです。憎しみによって聖霊なる神様を絶えず悲しませ続けることは、クリスチャンを神様の守りの領域から外れさせてしまいます。＜ヨハネの手紙 I 2章 11節＞に書かれている通りです。

<ヨハネの手紙Ⅰ 2章11節>

11しかし兄弟を憎む人は、暗闇の中をあてどなくさまよい、自分の行く先もわからない者です。暗闇のために、足もとさえよく見えないのです。

憎むことを習慣として行っている者も、この時点でまだクリスチャンであるということに注意してください。その人は、クリスチャンである兄弟を憎んでいるのです。しかしそのようなクリスチャンは、自分がどこへ向かっているのか分からなくなっており、憎しみによって目がくらまされています。その結果、その人はサタンの餌食となっています。使徒ペテロは<ペテロの手紙Ⅰ 5章8節>で、私たちすべてに警告しました。

<ペテロの手紙Ⅰ 5章8節>

最大の敵である悪魔の攻撃に備えて、警戒しなさい。悪魔は、飢えてほえたけるライオンのように、引き裂くべき獲物を求めてうろつき回っているのです。

「牧師先生、私はあるクリスチャンを憎んで苦しんでいます。 どうすればよいのでしょうか。」

もしクリスチャンが、誰か特にクリスチャンを憎んでしまうことで葛藤しているなら、その人は神様に、その相手への愛を自分の心の中に創り出してください。切に願うべきです。神様は、私たちの罪深い心を、イエス様の心のように、汚れのない愛に満ちたものへと造り変え続けてくださいとの私たちの願いに、必ず応えてくださいます。それは、祈りの中でイエス様の御足もとにへりくだることにかかっています。

イエス様は<マタイの福音書7章7節>で言われました。

<マタイの福音書7章7節>

求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。戸をたたきなさい。そうすれば開けてもらえます。

死を見ることがないために、どれほどイエス様の御言葉に従うか

私たちはしばしば、「神様の愛は無条件である」と言います。ヨハネの手紙Ⅰとローマ人への手紙12章にあるこれらの聖句は、イエス様を信じて新しく生まれ変わった後に神様の愛は無条件でないと示しています。しかし、私たちがイエス様を愛し続けることを願うならば、神様は、さらに聖霊なる神様が私たちに働いてくださるようにし続けてくださり、私たちの心を御子イエス様に似たものへと造り変えてくださいます。そしてその結果、私たちは、イエス様の戒めに従って成熟していくのです。

要点⑤

生きたささげものとして生きるクリスチャンは、仲間のクリスチャンを憎みません。憎しみはクリスチャンの目をくらませ、その結果、イエス様に従うことができなくなります。そのため、彼らは悪魔から守られるイエスの力強い守りを持たないことになります。

本日のメッセージは、義認と呼ばれる救いに至らせる神様の無条件の愛という聖書の真理と、私たちの聖化の一部である、生きたささげものや神様の子どもたちを愛することにおける神様の条件付きの愛とを、結び合わせました。愛するクリスチャンの皆さん、クリスチャンの人生は難しくないことを覚えていてください。不可能なのです。だからこそ神様は、それを可能にするために、ご自身の聖霊なる神様を私たちにお与えになられたのです。そして私たちが天国に入り、栄光の冠を受け、そしてそれらをイエスの御足もとに投げ出すとき、なんという喜びがあることでしょうか。神様は、不可能なこととは何一つありません。

祈りましょう。
聖餐式です。